

第2回寝屋川市放課後子ども総合プラン運営委員会議事録

1 日時 令和5年2月16日（木） 午後1時30分から午後2時30分

2 場所 議会棟4階 第一委員会室

3 参加者

(1) 出席委員 （13名）

杉本委員長、枡井副委員、植木委員、龍田委員、森委員、土保委員、
畠中委員、山本委員、村上委員、谷口委員、永幡委員、栗原委員、
大寺委員

(2) 欠席委員 （2名）

清水委員、甲斐委員

(3) 事務局 （4名）

大野課長、山口係長、徳留、高岡、山田

4 次第

【報告】 1 国及び大阪府等の動向について

【案件】 1 実行委員の現状及び今後について

2 放課後子ども教室の現状報告と意見交換

3 来年度の放課後子ども教室の運営の方向性について

4 今後の予定について

事務局：放課後子供教室の取組み状況を説明

各委員：

- ・プログラム企画から留守家庭児童会と連携するにあたり、どのように運営していけばよいのか。実行委員会に留守家庭児童会が参画している場合はスムーズに連携できるが、会議等に参加していない場合は難しい。

議論をする場にみんながいる事、共通認識を持つ事が大事である。

また、インターネット上で掲示板等を活用し、実行委員会同志のコミュニティーを持つことも可能ではないか。

- ・報償費については最低賃金があがり、賃金としてお支払いはしていないが地域の有償

ボランティアということもあり、柔軟な対応が必要である。

しかし、報償費ありきで活動を進めると活動がうまくいかない場合もあるので検討する必要があるのではないかな。

- ・本格的な活動再開に向け、雨天時や猛暑時期のプログラムの工夫が必要である。
雨天時の校庭開放は図書を開放すると決まっているので、児童も理解し図書で過ごしている。
- ・様々なプログラムが再開し始めているが、災害時に向けての避難訓練なども、留守家庭児童会含め実践することがよいのではないかな。
- ・放課後の取組は子どもたちのためだけではなく、そこに関わる大人が子どもを中心に
して一つのコミュニティーができる。いわゆる地域づくりのための放課後子供総合
プランであってもいいのではないかな。学校を中心に活動することで新たに人材発掘が
でき、その人が地域貢献できるような場をこの放課後子供総合プランで実践できれば
いいのではないかな。
- ・教員にとって放課後総合プランはどのような捉え方をしているのか。
手が空いている場合は、一緒に遊んだりすることもあるが、宿題ができていない児童
を見たり会議等も入っているので、体制づくりまではできていない。
しかし友達と遊ぶ様子や、安全管理員と一緒に折り紙など工作をする姿をみて、大切
な居場所ということを実感している。